2015.9.27　年間第２６主日

逆らわない者は味方

マルコによる福音　9:38-43、45、47-48

（そのとき、）ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちに従わないので、やめさせようとしました。」イエスは言われた。「やめさせてはならない。わたしの名を使って奇跡を行い、そのすぐ後で、わたしの悪口は言えまい。わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。はっきり言っておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。

　わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。もし片方の手があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。

　もし片方の足があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両足がそろったままで地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても命にあずかる方がよい。もし片方の目があなたをつまずかせるなら、えぐり出しなさい。両方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。」

説教

きょうの福音は二つの話で構成されています。これを別々の話と考えて、わたしたちの教訓とするという読み方もありますが、きょうは一つながりのみことばとして解釈してみようとおもいます。

最初のはなし（38-41 節）は弟子のヨハネがイエスに、自分たちとは別のグループが「悪例退散のわざ」をイエスの名でおこなっている、と告げ口します。それに対してイエスが別のグループのやっていることはいいことだ、一々かまうなと諌めます。

わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。マルコ 9:40

つぎに 42-48 節のはなしはつまずかせる者は死んだほうがましという教えを、海に投げこめ、片方の手を切り捨てろ、足も同じ、目も同じ、地獄に行くよりましだ、とイエスらしからぬ激しいことばで説きます。

このふたつの話を

１）党派性（セクショナリズム）

２）つまずかせ問題

と表題をつけて区別してみます。

＜党派性＞

ヨハネは自分たちとは違うグループがいて、彼らがイエスの名においてわざをおこなっている（悪霊退散、悪霊追い出し）ことが気に入らなかった。ヨハネとしては、イエス弟子の本家は自分たちで彼らはインチキだという思いをもった、ということでしょう。これって今でもよくあるはなしじゃないですか。教会員であれば誰でも「うちの教会」という思いがあります。これはほかの教会と比較しているからこそ生まれる思いです。うちの教会ではこうだけど、あそこの教会ではそうじゃないとかウンヌンカンヌン、アーダコーダと広がっていきます。ようは一致の正反対、ま逆のありようです。全教会の一致を目指す地上の教会の態度としてはよくありません。

これをわたしは二項対立図式という考えで解釈しています。日本でも 1960 年から 1970 年代にかけて「近代の超克」「政治と文学」などなどというテーマで論争おきました。これは現在でもすっきり解決していない問題だとおもいます。いまでも人類はこの問題を超えることができていません。

＜つまずかせ問題＞

この「つまずかせ」とは世間のことばと教会のことばではちがった意味でつかっています。つまずくとは一般的にはころんだ、けつまずいたなど、動作、しぐさの様子を表すことばとしてつかいますが、教会では特別な意味をつけてつかっています。もちろんそれは福音の中でイエスが語っているから一般的な意味とは違ってくるわけです。しかし、特に日本のプロテスタント教会では「つまずかせ」ということばをいまだ理解していないと思います。いろいろ理由はあるのでしょうが、わたしが考えている一番の問題点は「つまずき」を表面的に捉えていることです。つまり、「つまずかせ」はいけない、つまずかせるようなことはまったくダメだ。つまずかせ問題を起こさないためには、回避するためには規律が必要である、その規律さえ守っていれば、つまずき、つまずかせは起きない、解決する、というまるでファリサイ派のような考え方で解釈している、それを現実に適用していると思うからです。このような態度、考え方を批判して、パウロはこういいました。

文字は殺しますが、霊は生かします。二コリ 3:6b

イエスのことばに戻ると

わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。マルコ 9:42

「石臼」のときは死んだほうがまし、という指摘ですが、それ以降の「手」「足」「目」はヒト全体からヒトの部分へと変わってきています。イエスのいっている内容がおっかないので、わたしなんかつい読み流してしまうのですが、この石臼のたとえは「他人に対してのつまずかせ問題」です。一方の手足目のたとえは「自分自身の中にあるつまずかせ問題」を指摘しているのだと思います。

このように解釈するときょうの福音の前半、後半がつながってきます。

ヤコブの兄弟ヨハネは「党派性」（いいかえれば、自分たちのグループ中心）でものを見、考えて別のグループがイエスの名を語ることに腹をたてた、イエスの十二弟子でなければイエスの名をかたれないとした。後半のイエスのことばはこのヨハネの考えを否定してグループを構成する個人に対して、つまずかせる者は死んだほうがましといい、その個人の心の中の問題として部分、つまり手・足・目をたとえにして問題をおこしている（つまり、つまずかせ問題）箇所を切り捨てろ、といった。ここで勘違いしてはならないのは「腐ったりんごを捨てろ」（その教会、その牧師にとって好ましくないヒトを切り捨てる）といっているのではなく、自分の中にある問題、つまり、つまずかせ問題、にそれぞれ自分自身で対処しろと奨めているのです。
「党派性問題」が解決している、乗り越えられているのならば「つまずかせ問題」石臼・手・足・目問題はおのずと解消されます。だから党派性問題が先決、優先課題であるという考え方は間違っています。このような考え方はまったく二項対立図式の考え方だからです。
わたしたち人類はイエスが説いた福音を実現できていません。この事実をそれぞれに真剣に受け止めてください。そして（少しでも）イエスのみことばに従えるように祈りましょう。